

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400197		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ市原		
所在地	千葉県市原市東国分寺台1-11-7		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和4年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・長く続くコロナ禍において、閉塞的空間にいるご利用者の笑顔を少しでも引き出せるように、定期的な季節イベントや昨年から続けているオンラインボランティアの開催を始め、おやつレク等の工夫をしながら、楽しい時間を過ごせる企画を毎日のように実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 社会福祉協議会やボランティア団体などの地域資源を積極的に活用し、コロナ禍で外出や人との触れ合いのできない状況でもオンラインボランティアなど、入居者に喜びと社会との繋がりを維持できるよう取り組んでいる。2) 管理者は「職員あってこそその入居者への質の高い介護」との認識を強く持ち、毎日職員ひとり一人と会話し、こんな風にできたらよいと思える信頼し合える働き甲斐のある職場作り力を入れている。3) コロナ禍での入居者ひとり一人の過ごし方を職員が工夫し取り組んでおり、入居者と職員と一緒に体操やゲームを楽しみ、また、壁飾りや創作物を作りながら笑顔でおしゃべりしている様子が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①思いやりのある介護を ②いつも笑顔で ③環境整備の徹底をする 以上3点の理念を掲げて共有している。	「気づきの集団」を目指し、その場・その時に気づいたことを職員同士で話し合える職場作りに取り組み、「思いやりのある介護・いつも笑顔で・環境整備の徹底」との理念を共有し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアによるイベント実施や小学校の職業体験の受入れを実施している。小規模のご利用者との交流する機会もある。	地域のボランティア団体の協力により、オンラインレクやミカン狩り風景や袖ヶ浦公園の現場ロケ風景を配信して頂いたりしている。コロナ禍終息後、いつでも以前のように地域との付き合いが復活できる準備ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、開設前の運営推進会議で町会の方へ認知症についてご理解いただけるよう説明をしている。依頼があれば町会へ向けた認知症介護のアドバイスも行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会より祭りへの参加ご案内を頂くなど、地域との連携を図っている。	コロナ禍以前は町内会長、地域包括支援センター、市役所職員や家族が参加して運営状況、行事報告などを議題として質疑応答で避難訓練時の地域との協力などの提案を活かす取り組みがされていた。コロナ禍のため、運営推進会議実施報告書の送付のみとなっている。	これまでの参加者や家族に書面運営推進会議議事録と次回会議の資料を事前に送付し、意見や要望を記入する用紙と返信封筒を同封するなど、意見や要望をサービス向上に活かす工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所が近く介護保険課、生活福祉課と連携を取りやすい。運営推進会議にも参加していただき意見を頂いている。	市役所が近く、介護保険課や生活支援課との連携も取り易く、また、地域包括支援センターとの連携も良くとれている。社会福祉協議会や地域ボランティア団体との連携も良くとれコロナ禍でもオンラインで活動して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、フロア出入り口はオートロックとなっており、また窓の開閉制限をしている。運営規定や重要事項説明書において、原則身体拘束をしない旨を明記し、安心・安楽・安全なケアに取り組んでいる。	職場30分研修年間研修計画に「身体拘束および虐待防止」を年2回組み入れ実施している。また、3か月に一度身体拘束廃止適正化員会を開催している。虐待の芽チェックリストを活用するなど職員ひとり一人の意識向上を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い、言葉や態度による虐待はないか等と注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護について研修を行い、よりよい支援の必要性を見定めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を読み上げながら、適宜、不安や疑問点がないか確認し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響もあり、ご家族の繋がりは玄関先での面会15分間程度、又、電話にて連絡ご入居者の様子を報告すると同時に様々な相談をしている。	元々家族との交流を大切に、納涼祭やクリスマス会など家族参加行事を多く実施し、家族からの意見や要望を運営に反映させるようにしていた。ミモザ市原通信に入居者の1か月の様子や体調や行事時の写真と一人ひとりの日常生活の写真を多く掲載し、また、年間行事予定と当月のレク・イベントカレンダーを添えて毎月家族に送付している。メールや電話でいただいた「訪問マッサージを早く入れて欲しい」「ミモザ通信でもっと詳しく情報を教えて欲しい」などの意見や要望をいただき、反映させるよう検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の実施とカンファレンスの機会を設けている。意見を尊重してよりよい施設作りに取り組んでいる。	管理者は毎日全ての職員と言葉を交わすことを実行し、職員の気持ちを把握し信頼し合える職場作りとアロー制度など職員に合った役割を提供し、また、毎月のスタッフ会議で出される職員からの意見を取り入れ、シフトやレク・行事に活かすなど、働き甲斐のある職場づくりに取り組んでおり、職員の定着率は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社事業規定により、定期的に公平な人事評価を行っている。またメンタルヘルスの相談窓口を設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の案内を出して参加を促している。社員登用制度や管理者候補者としての育成研修もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社研修では異なる地域やサービスの職員と横のつながりを持つことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い、ご本人の言葉を傾聴し、不安や要望をしっかりとサポートする姿勢を伝えることで信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談を行い、施設の実績等を踏まえながら、不安や要望をひとつひとつ解決していくことで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご利用者状況を見させていただいた上で、ご家族のニーズ、ご本人の意思を尊重したサービス提供を行う。必要に応じて他サービスのご案内も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや掃除などの家事手伝いを日常的にお願いしている。またご入居者と職員による共同作業を楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話にて、積極的にご本人の様子を報告・相談し、共に支えていく関係を築いている。ヒヤリハット事故報告等家族に連絡する事で介護に参加して頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊を原則自由としている。ご本人やご家族の希望により電話の取次ぎを行っている。	コロナ禍のため面会・外出・外泊はお断りしている。電話を取り次いで直接お話しいただいたり、手紙のお手伝いなどの支援をしている。また、ご自身のアルバムを持参いただいております。10代・20代の若い頃や旅行の写真などを見て、隣にいる人や風景などを懐かしんでいただくなど、馴染みの関係を続けられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度に差があるご入居者達の中に職員が介入することで、和やかに交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の相談に対し、丁寧な支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に聞き取りを行う他、ミモザでの生活をどの様に暮らしたいか又はミモザ以外の場も含め希望、意向聞く。	入居前に、直前の病院などでの食事・排泄・入浴の状況やADL等を収集し、家族から電話等で入居者の出身地や生活歴、趣味、好みなどのこだわりを聞き取っている。「思いやりのある介護」、「いつでも笑顔でのおもてなし」の支援につなげるために、入居後は入居者のリラックスした機会を見つけて、入居者自身の思いや意向の把握に努めている。言動や様子はできるだけ具体的にケアチェック表に記載してケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談を行い、生活歴等について出来る限り情報収集できるようにしている。必要に応じてなじみのあるものを持ち込んでいた		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで過ごしていただき、その中で現状や変化を把握するよう努めている。前任ケアマネ情報収集してる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新時本人家族様生活保護受給者その課題に対する議題に目標を考える。管理者、ケアマネージャーが主体となるカンファレンスを行い、よりよい介護計画を作成するようにしている。	計画作成担当者は、入居者の希望や家族の心配事などの意向を尊重し、入居者の「できること」に視点を置いた目標を設定している。「ケア記録」には、入居者の発した言葉や表情、不穏な言動などが詳細に記録され、表情などを写真に残して変化を把握している。6か月ごとに、計画作成担当者が短期目標毎の本人・家族の満足度や達成状況を「モニタリング総括表」に整理している。サービス担当者会議前に、総括表を職員全員へ回覧し、職員間の活発な意見交換によりケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにエントリーしている事でiPadの写真と経過記録徹底。出勤した職員は必ず確認している。気づいた点等は口頭や申し送りノートにて報告・連絡・相談し、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営規定に基づく中で、新規利用者様の受入柔軟な支援に努めている。病院受診家族対応が難しい場合はミモザスタッフ付き添いにて同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入している。地域ボランティアの方々に来ていただき、イベントの実施を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携についてご本人、ご家族に理解をいただいた上で、内科・必要であれば整形外科・歯科の往診を実施していただいている。	月2回の内科医による往診と訪問看護をほとんどの入居者が利用し、入居前からのかかりつけ医への受診には職員が同行している。往診時には職員が同席し、訪問看護師からの情報や職員の気づいたことなどの相談事項を往診医に伝え、円滑で適切な受診につなげている。医師からの指示事項や薬の変更などは、「申し送りノート」や介護記録に記録し職員間の情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護ステーションが入り健康チェックを行いアドバイスもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先やご家族への電話連絡にて。情報交換を行っている。介護サマリー等の入院時に必要な書類をスムーズに提出している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応指針を示し、内容を十分に理解していただいた上で契約を結んでいる。	入居時に、利用者・家族に「重度化対応・看取り介護指針」でホームの重度化対応の考え方や協力医療機関、訪問看護ステーションとの医療連携体制、住み慣れた地域で最期の看取りまで過ごせることを説明している。食事がとれない状態になった際には、主治医と家族の話し合いと合意の後、医師、看護師の意見を取り入れて看取りに向けたケアプランの見直しを行っている。職員は「その人らしい」生活と尊厳を守りながら最期まで入居者に寄り添い、コミュニケーションを図っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示や施設内研修により、急変や事故発生時の対応に備えているが職員ごとの力量に差がある現状である。。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、夜間想定も含めて緊急連絡網を作成しており、職員への連絡が可能である他、町内会長との協力体制を築いている。	日中・夜間火災を想定した併設の小規模施設との合同避難訓練を、コロナ対策を図りながら年2回実施している。「避難訓練実施要綱」にそって、だが、何を行うかを時系列に参加職員に明示し、利用者、職員は訓練に参加している。実施後は、一時避難場所の確認や車いす利用の入居者の誘導法など訓練時に気づいたことを「実施結果報告書」に整理して職員へ周知している。また、一番心配な台風による停電を想定し、水や食料品等の災害用備蓄品を従来より多めに備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね全職員が優しい声かけや丁寧な声かけの実施ができています。	「ありのまま」での生活の継続と傾聴、受容、共感を大切にした支援に努めている。職員はマスク越しでもいつも入居者に笑顔で接し、そばに寄り添い安心して暮らせるように支援している。リビングでは懐かしい歌を利用者同士で楽しみ、雪だるまをテーブル上で作って童心に帰るなど、生活感や季節感を味わえるように取り組んでいる。また、「今日の洋服は素敵ですね」「たくさん食べられましたね」など、肯定的な会話や入居者のやる気、生きがいにつながる声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようご利用者に確認を取っている。自身の想いを現せない方に対しては思いをくみ取る様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活ができるようにしている。フロアより部屋が好きな方へは無理な声かけはせず、ペースを崩さないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を持ってきているご利用者もいる。その人らしい生活は崩さず、強制はしないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のできるご利用者と一緒に作ることもあります。食事の準備や食事はご利用者と一緒に取り組んでいる。	入居者はテーブル拭きやお盆、茶碗ふき、洗いなど個々の力に応じて食事を手伝い、達成感を感じている。正月には職員手作りの豪華なおせち料理を用意し、季節感と家庭の雰囲気味わっている。誕生会、クリスマス会、敬老会でも入居者の希望を取り入れた季節感を味わえる食事を提供している。また、餃子やおはぎづくり、ホットプレートを使ってのタコ焼き、お好み焼きづくりなどのおやつレクを月2回実施して、職員と入居者がコミュニケーションをとりながら楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて医師の指示をいただき、食事量や水分量を記録して管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどのご利用者がご自身で口腔ケアを行っている。状況により手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツを使用せず、トイレでの排泄を進めている。ポータブルトイレを使用しているご利用者もいる。	各ユニットには車いす対応を含め3か所のトイレが整備され、可動式手すりの設置により安心して排泄が行われている。シャワー付きのトイレは浴室とつながり、排泄で失敗した際にもプライバシーや羞恥心に配慮して対応している。入居者の表情や動きなどの合図を察知し、定時誘導と排泄チェック表を活用してほとんどの入居者がトイレでの排泄を行えている。また、便の性状や失禁量の観察をこまめに行い、パット交換や大きさの調整などによりオムツ使用を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を実施している。便秘状況は医師と相談しながら解決をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じて午前入浴、午後入浴と対応している。ある程度の曜日は決めていたが、希望によって前後することもある。	身体の清潔保持と血行促進のために、入浴表を活用して週2回の入浴を勧めている。体調や気分に合わせて、入浴日、時間帯の変更やシャワー浴など柔軟に対応している。季節ごとに菖蒲湯、柚子湯を使用して、ほとんどの入居者が喜んで入浴を楽しんでいるが、入浴拒否の場合には更衣を促したり、声掛けの職員を交代してさりげない浴室への誘導を図っている。機械浴も可能な浴室にはつかまりやすい位置に手すりを設置し、介護度の高い入居者には2、3名の職員の介助により、安全な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて昼寝の時間をつくっている。昼夜逆転にならないよう、日中はレクリエーション等行い活動している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局とも連携しており、病院と連携を図り正しい服用をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは活かしてご利用者にも役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在は外出まではいかないが近隣公園にて外気浴している。	コロナ禍においても、感染対策を図りながら地域住民との接触を避け、少人数で近くの公園への散歩に出かけている。緑に囲まれた公園のベンチに座り、ゆったりした気分を味わい、穏やかな表情が見られるようになってきた。また、施設の玄関先の花壇いじりで外気浴も楽しんでいる。コロナ収束の際には、これまで実施していたドイツ村見物や季節毎の桜、紅葉見物などの外出行事を計画している。また、家族と一緒に外食や墓参り、旅行などへの外出支援も行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ご家族からお預かりして金庫で保管している。職員と買い物へ出る機会もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の変わり目でご家族へお手紙を出す事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行っている。室温管理を行い快適に生活できるよう支援している。	コロナ感染予防のため、共有部分の椅子・手すりなどのアルコール消毒や定期的な換気、加湿器による湿度管理などに取り組んでいる。入居者の書初めの作品や入居者と職員が共同で制作した壁画やクリスマスの飾りにより季節感を感じられるフロアになっている。また、フロアは賑やかな雰囲気活動の場と考え、ハロウィンパーティーやカラオケなどのイベントを入居者は思い思いに楽しんでいる。また、入居者同士の相性などを考慮して3つのテーブル席を配置し、穏やかな時間を過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は仲の良いご利用者が並べるようにしているが、独りになれる共有スペースはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使いなれた物の持ち込みをしていただいている。状況を見ながら安全に生活できるようにしている。	季節の花の名前のついた居室の前には、大きな文字で入居者の名前と部屋番号が掲示され、混乱せずに入室できるように配慮している。清潔な空間づくりのために、居室の掃除を行い入居者も一緒にコードレスの掃除機で手伝うこともある。家族の位牌や趣味の本、使い慣れた家具、人形、自分で編んだ編み物などが家族の協力により自由に持ち込まれ、これまでの生活の継続を感じられるようにしている。立ち上がり易い位置へのベッドの移動や、つかまり易い位置に家具を配置するなど、転倒防止や動線確保を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には「トイレ」と書いてあり、ご自身で迷わず入れるように考慮している。段差を極力少なくして車椅子での移動もできるようになっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	ご利用者が外出することが出来ない。	コロナの影響もあり、定期的にオンラインボランティアを行う。	オンラインのボランティア団体との交流深め継続すること。他のミモザとの機会が作れないかも念頭に置く	2ヶ月
2	67	全ご利用者が満足していると思えるようになっていない	サービス内容の見直しを行い、全ご利用者が満足していると職員は自信を持てるようになる。	カンファレンスを行い、ご利用者が全ご利用者が満足できるケアが出来るように取り組む。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。